

⑫ 実用新案公報(Y2)

平5-40493

⑤ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成5年(1993)10月14日

G 02 C 7/10
9/00

請求項の数 1 (全6頁)

⑮ 考案の名称 サングラス取付装置

⑯ 実 願 平1-17574

⑰ 公 開 平2-109325

⑱ 出 願 平1(1989)2月17日

⑲ 平2(1990)8月31日

⑳ 考 案 者 定 永 秀 樹 福井県福井市問屋町1丁目10番地 株式会社村井内

㉑ 出 願 人 株 式 会 社 村 井 福井県福井市問屋町1丁目10番地

㉒ 代 理 人 弁 理 士 世 良 和 信

審 査 官 須 藤 康 洋

㉓ 参 考 文 献 実 開 昭63-60122 (JP, U) 実 公 昭58-39444 (JP, Y2)

2

㉔ 実用新案登録請求の範囲

サングラスのフロント枠に設けられた第1固定部と、

前記サングラスが重ね合わせられる眼鏡のフロント枠に設けられて前記第1固定部を固定する第2固定部と、

より成るサングラス取付装置であつて、

前記第1固定部は前記サングラスのフロント枠の両側に少なくとも一つずつ突設された第1突設部より成り、

前記第2固定部は、前記眼鏡のフロント枠の両側に少なくとも一つずつ、前記第1固定部に対応する位置に突設されて前記第1突設部を係止する第2突設部より成り、

前記第1突設部又は前記第2突設部の何れか一方の突設部は、当接面と、該当接面より突出する凸部と、を有して成り、

他方の突設部は、前記一方の突設部の当接面を保持する保持面と、前記一方の突設部の凸部が嵌合する凹部と、を有して成り、且つ、

前記第1突設部と前記第2突設部とは互いが磁気吸着可能である、

サングラス取付装置。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、サングラス取付装置、特に、度付眼鏡にサングラスを取付けるサングラス取付装置に

関する。

(従来技術)

従来、このような度付眼鏡に取付けるサングラスとして、第8図に示すような前掛け式サングラス100がある。前掛け式サングラス100は、左右一対の遮光レンズ101、102を備える。

また、ブリッジ103が左右遮光レンズ101、102を連結している。また、この遮光レンズ101、102の背面側に設けられ、前掛け式サングラス100を、度付眼鏡等に取り付けるための取付具104を有する。

他の従来例として、第9図及び第10図に示す前掛け式サングラス105がある。前掛け式サングラス105は、レンズ枠106と中央フレーム部107とがあり、中央フレーム部107とレンズ枠106とは相互に回動可能になっている。

レンズ枠106の上部には取付部108が設けられている。この前掛け式サングラス105を度付眼鏡109に取り付けるには、度付眼鏡109を覆うように前掛け式サングラス105を配置し取付部108を度付眼鏡109のレンズ枠106の上部に固定する。また、この前掛け式サングラス105を取りはずす場合には、取付部108をレンズ枠106の上部からはずして、前掛け式サングラス105の全体を取りはずす。

さらに他の従来例として、第11図及び第12図に示すハネ上げ式サングラス110がある。こ

のハネ上げ式サングラス110は、左右両側のレンズ枠111を有し、レンズ枠111は、筒体112を介してブローバ113に接続されている。

また、左右両側のレンズ枠111の内側にパッド部材114が配置されている。ここで筒体112は、シリンダ状部を有し、内部にスプリング(図示せず)が配置されている。

(考案が解決しようとする問題点)

しかしながら従来技術の度付眼鏡に取り付けるサングラスによれば、次のような問題点がある。

まず従来技術の前掛け式サングラス100によれば、度付眼鏡への取り付けは、取付具104で度付眼鏡のレンズを挟むように行なわれる。このような取付具104による取り付けのため取付部にガタツキが生じ、取付けの確実性に欠ける。

次に従来技術の前掛け式サングラス105によれば、前述のように取付部108によつて度付眼鏡109のレンズ枠106の上部に引つ掛けて固定する。従つてこれも取り付けの確実性に欠ける。

最後に従来技術のハネ上げ式サングラス110によれば、サングラスの取り外しができないという問題がある。

本考案は上記諸問題に鑑みてなされたもので、その目的とする所は、サングラスを眼鏡に重ねるだけで、正確に位置決めされた状態で固定がなされ、しかも、磁気吸着によつて固定された固定部の固定位置がずれるのが防がれるサングラス取付装置を提供することにある。

(問題点を解決するための手段)

上記目的を達成するために本考案にあつては、サングラスのフロント枠に設けられた第1固定部と、前記サングラスが重ね合わせられる眼鏡のフロント枠に設けられて前記第1固定部を固定する第2固定部と、より成るサングラス取付装置であつて、前記第1固定部は前記サングラスのフロント枠の両側に少なくとも一つずつ突設された第1突設部より成り、前記第2固定部は、前記眼鏡のフロント枠の両側に少なくとも一つずつ、前記第1固定部に対応する位置に突設されて前記第1突設部を係止する第2突設部より成り、前記第1突設部又は前記第2突設部の何れか一方の突設部は、当接面と、該当接面より突出する凸部と、を有して成り、他方の突設部は、前記一方の突設部

の当接面を保持する保持面と、前記一方の突設部の凸部が嵌合する凹部と、を有して成り、且つ、前記第1突設部と前記第2突設部とは互いが磁気吸着可能である。

(作用)

上記構成の本考案にあつては、サングラス及び眼鏡のそれぞれに設けられた第1、第2の各固定部は何れもフロント枠の両側に少なくとも一つずつ突設された第1、第2の突設部より成つていて、サングラスを眼鏡に重ね合わせて固定する際に、一方の突設部に他方の突設部を合わせることで、サングラスと眼鏡との正確に位置決めされた状態で固定がなされる。

しかも、第1突設部と第2突設部とは互いが磁気吸着可能となつていて、第1突設部と第2突設部とを合わせただけで係止がなされるので、眼鏡を顔に掛けた状態のままで、第1突設部が第2突設部に合わさる様にサングラスを眼鏡に重ねるだけで、正確に位置決めされた状態で固定がなされる。

さらに、第1突設部又は第2突設部の何れか一方の突設部は、当接面と、当接面より突出する凸部と、を有して成り、他方の突設部は、一方の突設部の当接面を保持する保持面と、一方の突設部の凸部が嵌合する凹部と、を有して成るので、磁気吸着によつて固定された第1突設部と第2突設部との固定位置がずれるのが防がれる。

(実施例)

以下に本考案を図示の実施例に基づいて説明する。

第1図乃至第7図は本考案の一実施例に係るサングラス取付装置を示し、同装置は、サングラス11のフロント枠15に設けられた第1固定部34と、サングラス11が重ね合わせられる眼鏡としての度付眼鏡1のフロント枠9に設けられて第1固定部34を固定する第2固定部25と、より成る。

度付眼鏡1は、度付眼鏡1のフロント枠9と、度付眼鏡1のフロント枠9の両側に設けられたつる4と、パッド部材3aと、を有して成り、度付眼鏡1のフロント枠9は、左右一対のレンズ枠2と、レンズ枠2を接続するブリッジ3と、より成つていて、

サングラス11は、サングラス11のフロント

枠15を有して成っており、サングラス11のフロント枠15は、左右一対の環状枠12と、環状枠12を接続するブローバ13と、から成っている。

なお、環状枠12は度付眼鏡1のレンズ枠9と同一形状となつている。

第1固定部34は、サングラス11のフロント枠の両側の真横に一つずつ突設された第1突設部14、14より成っている。

第2固定部25は、度付眼鏡1のフロント枠9の両側の真横に一つずつ、第1突設部14、14に対応する位置に突設されて第1突設部14、14に係止する第2突設部5、5より成っている。

第2突設部5、5は、金属製のカシメピン部5aと、カシメピン部5aの外部に取り付けられたカバー部5bと、カバー部5bと度付眼鏡のフロント枠9とを結合する結合部8と、から成り、カシメピン部5aは、円盤部5dと、円盤部5dの当接面5eより突出する凸部5cと、を有して成っている。

第1突設部14、14は、カシメピン部14aと、マグネット14bと、カシメピン部14aとマグネット14bとを合わせてカバーしその端面が当接面5eを保持する保持面14eを成す蓋体14cと、第2突設部5、5の凸部5cが嵌合する凹部14dと、を有して成っている。

上記構成の本実施例にあつては、サングラス11及び度付眼鏡1のそれぞれに設けられた第1、第2の各固定部25、34は何れもフロント枠9、15の両側の真横に一つずつ突設された第1、第2の突設部5、14より成っているため、サングラス11を度付眼鏡1に重ね合わせて固定する際に、第2突設部5に第1突設部14を合わせることで、サングラス11と度付眼鏡1との正確に位置決めされた状態で固定がなされる。

しかも、第1突設部14、14と第2突設部5、5とは互いが磁気吸着可能となつているので、第1突設部14、14と第2突設部5、5とを合わせただけで係止がなされるので、度付眼鏡1を顔に掛けた状態のままで、第1突設部14、14が第2突設部5、5に合わる様にサングラス11を度付眼鏡1に重ねるだけで、正確に位置決めされた状態で固定がなされる。

さらに、第2突設部5、5は、当接面5eと、

当接面5eより突出する凸部5cと、を有して成り、第1突設部14、14は、第2突設部5、5の当接面5eを保持する保持面14eと、第2突設部5、5の凸部5cが嵌合する凹部14dと、を有して成るので、磁気吸着によつて固定された第1突設部14、14と第2突設部5、5との固定位置がずれるのが防がれる。

また、度付眼鏡1とサングラス11とが嵌合して取り付けられた場合には、度付眼鏡1のレンズ枠とサングラス11の環状枠12が同形状であるので、サングラス11の前方から見た場合に、度付眼鏡1とサングラス11は一致して重なつて見え(第3図参照)、また側面から見た場合には、度付眼鏡1のレンズ枠2とサングラス11の環状枠12との間の間隙が1mm~2mmの一定の間隙で確実に固定されており(第4図参照)、正面或いは側面から見た場合の美観を損ねることがない。

そして、度付眼鏡1に取り付けられたサングラス11を取り外す場合には、サングラス11の第1突設部14、14を度付眼鏡1の第2突設部5、5から離脱させるように第1突設部14、14の磁気吸引力に抗して第1突設部14、14を引つ張る。

このようにして、日差しの強い場合などに度付眼鏡1にサングラス11を取り付け、不必要な場合に取り外して、サングラス11を保管することによつて、度付眼鏡1として、又、サングラス11として使用し得、使用者に便利である。

またサングラス11の色についても、種々の色を取り揃えておけば、適宜、好みの色を使用することによつてファッション性も高められ得る。

なお、サングラス11の形状及び度付眼鏡1の形状をほぼ円形状のものとして図示したが、種々の形状を取り得る。

さらに、第1突設部14、14及び第2突設部5、5の取付位置については度付眼鏡1のフロント枠9及びサングラス11のフロント枠15の真横に配置するものとしたが、取り付け場所は適宜変え得ることはもちろんである。

なお、ここではマグネットを有する第1突設部14、14をサングラス11に設けるとして説明したが、度付眼鏡1にマグネットを有する突設部を設けてもよい。

(考案の効果)

以上説明したように本考案によれば、サングラス及び眼鏡のそれぞれに設けられた第1、第2の各固定部は何れもフロント枠の両側に少なくとも一つずつ突設された第1、第2の突設部より成つているので、サングラスを眼鏡に重ね合わせて固定する際に、一方の突設部に他方の突設部を合わせることで、サングラスと眼鏡との正確に位置決めされた状態で固定がなされる。

しかも、第1突設部と第2突設部とは互いが磁気吸着可能となつているので、第1突設部と第2突設部とを合わせただけで係止がなされるので、眼鏡を顔に掛けた状態のままで、第1突設部が第2突設部に合わせる様にサングラスを眼鏡に重ねるだけで、正確に位置決めされた状態で固定がなされる。

さらに、第1突設部又は第2突設部の何れか一方の突設部は、当接面と、当接面より突出する凸部と、を有して成り、他方の突設部は、一方の突設部の当接面を保持する保持面と、一方の突設部の凸部が嵌合する凹部と、を有して成るので、磁気吸着によつて固定された第1突設部と第2突設

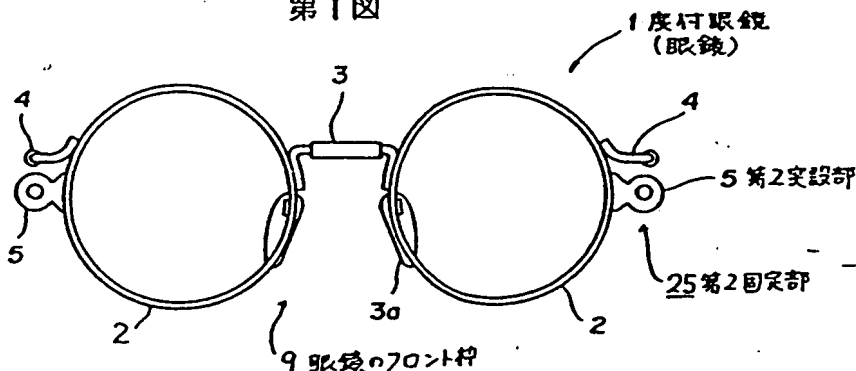
部との固定位置がずれるのが防がれる。

図面の簡単な説明

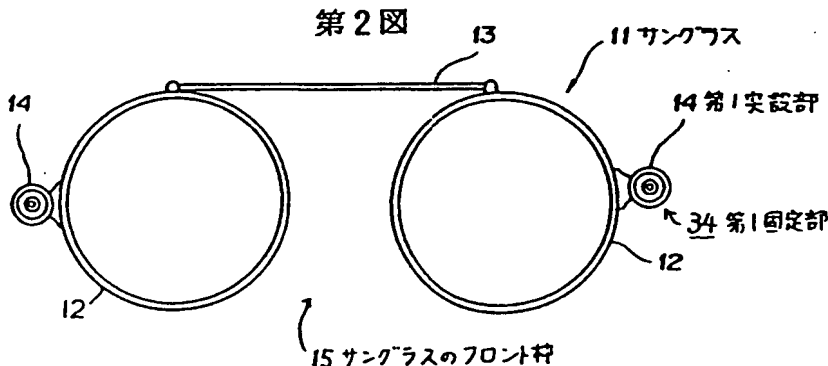
第1図は度付眼鏡の正面図、第2図は度付眼鏡に取り付けられるサングラスの正面図、第3図は度付眼鏡にサングラスを取り付けた正面図、第4図はサングラス取付装置の側面図、第5図は取付装置の拡大図であり、イは平面図、ロは正面図、第6図は取付装置の拡大図であり、イは正面図、ロは側面図、第7図は取付装置の断面図を示し、イは第2固定部の部分断面図、ロは第1固定部の部分断面図、第8図、第9図、第11図は従来技術による度付眼鏡のサングラスの正面図、第10図は従来技術によるサングラス付きの度付眼鏡の平面図、第12図は従来技術のサングラスの側面図である。

符号の説明、11……サングラス、15……サングラスのフロント枠、34……第1固定部、1……度付眼鏡、9……度付眼鏡のフロント枠、25……第2固定部、14……第1突設部、5……第2突設部、5e……当接面、5c……凸部、14e……保持面、14d……凹部。

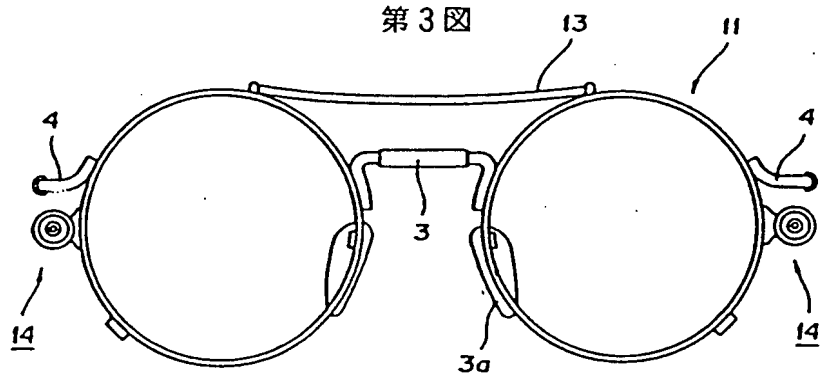
第1図



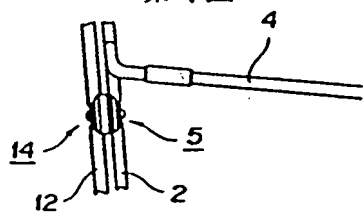
第2図



第3図

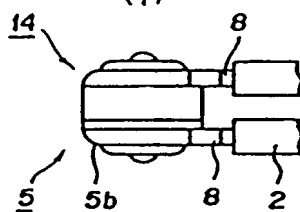


第4図



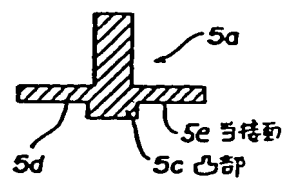
第5図

(イ)



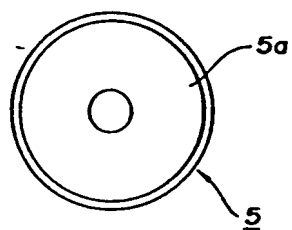
第7図

(イ)

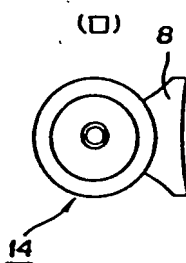


第6図

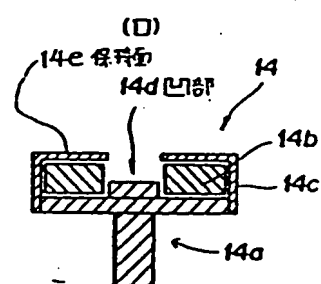
(イ)



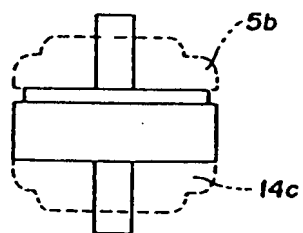
(ロ)



(ロ)



(ロ)



第8図

